

シンポジウム

アジアの教育現場と国際協力

—21世紀アジアにおける国際協力とNGOの役割 第2回—

日時：2008年2月24日(日) 13:00～17:00

会場：東京国際フォーラム ホール D7

主催：国士舘大学アジア・日本研究センター

後援：朝日新聞

1部 講演(プログラム順)

茅野俊幸(社団法人シャンティ国際ボランティア会事務局長)

小山内美江子(認定NPO法人JHP・学校をつくる会代表理事)

山谷えり子(内閣総理大臣補佐官(教育再生担当)、参議院議員)

2部 パネルディスカッション:(順不同)

茅野俊幸

小山内美江子

大橋正明(恵泉女学園大学人間社会学部学部長、国際協力NGOセンター理事長)

星野昌子(2008年洞爺湖サミットNGOフォーラム代表、日本国際ボランティアセンター特別顧問)

田原淳子(国士舘大学体育学部准教授)

コーディネーター:

中山雅之(国士舘大学アジア・日本研究センター研究員、21世紀アジア学部准教授)

2008年2月24日(日)、有楽町にある東京国際フォーラムホールD7にて、シンポジウム「アジアの教育現場と国際協力—21世紀アジアにおける国際協力とNGOの役割 第2回—」が行われた。これはセンター研究員中山雅之が担当するプロジェクト「21世紀アジアにおける国際協力とNGOの役割」の一環として昨年度の研究会合に続く第二回目の研究成果報告会となり、昨年の「パートナーシップ」というキーワードに引き続き今回は「教育」をその柱として、実際に活動をしているNPO・NGO団体の方々よりご講演いただいた。本シンポジウムは、会場を東京国際フォーラムとし、学校関係者や非営利活動に携わる者だけに限定せずひろく一般から参加を募ったところ、問い合わせや申し込みを含めて250名以上の方々に興味を示していただいた。

1部では、社団法人シャンティ国際ボランティア会の茅野氏より、「共に生き、共に学ぶ～絵本を食う子どもたち～」として、団体の活動概要のなかでも特徴的な絵本を通じた教育活動について、文庫活動などを経た自身の体験や将来の展望も含めてお話いただいた。続いて認定NPO法人JHP・

学校をつくる会の小山内氏が「なぜ学生と歩くのか カンボジアの教育現場」として、カンボジアで学校建設に携わるまでの脚本家生活から団体設立といった経緯や、学生との交流など実際の活動における苦労や成果について、映像を交えて紹介いただいた。そして内閣総理大臣補佐官（教育再生担当）、参議院議員である山谷氏は、「教育再生に向けて」というタイトルで、中枢として関わってきた教育再生会議について、現在ある課題やそれに対する対策を、また個人の体験を基にした日本の教育への想いを、熱く述べられた。

2部では、長年携わっているNGO活動の紹介と参加者に向けたメッセージとして、恵泉女学園大学人間社会学部および国際協力NGOセンターから大橋氏が、バングラデシュに始まるNGOでの活動の歴史と、ボランティア活動だけに収まらない行動の基準などについて話された。次に2008年洞爺湖サミットNGOフォーラム代表でもある日本国際ボランティアセンターの星野氏が、自身の体験を通して得た文化の違いをいくつかのエピソードを通して紹介し、ボランティアと他の国々の人たちに相対する際の心構えについて説いた。また国土舘大学体育学部準教授の田原氏が、スポーツを通じた国際協力の事例を、その経緯や問題点なども含めて紹介し、そこから立ち返った日本の教育の問題点と学生生活への助言で結んだ。その後パネルディスカッションが行われ、閉会間際まで活発な議論が行われた。

講演内容を詳細に記した同シンポジウムの報告書は、2008年7月7日にアジア・日本研究センターより発行している。